

編集後記

ハモニカ横丁ミタカの ハジマリハ、

必要ならば、 法隆寺をとりこわして 停車場をつくるがいい。

我が民族の光輝ある文化や伝統は、そのこと
によって決して亡びはしないのである。武蔵
野の静かな落日はなくなったが累々たるバ
ラックの屋根に夕日が落ち、埃のために晴れ
た日も曇り、月夜の景観に代わってネオン・
サインが光っている。ここに我々の実際の生
活が魂を下している限り、これが美しくなく
て、何であろうか。見給え、空には飛行機が
とび、海には銅鉄が走り、高架線を電車が轟々と
駆けて行く。我々の生活が健康である限り、
西洋風安直なバラックを模倣して得々として
も、我々の文化は健康だ。
(坂口安吾 日本文化私館より 昭和17年2
月28日)

ヒトコト

ボクがバックミンスター・フラーについて
ヒトコト言うなんて
オコガマシイのダケレド

フラーは「宇宙船地球号」のボウ頭で海で
ソウナンした時のコトを書いている。

アレル海に体ヒトツでタダヨッテルンダケ
ド、船からヤハリ、ホウリダサレタ木の
Piano も眼の前にタダヨッテル。

マアそれに必死でつかまる話ナンダケド。
フラーはそこで「このピアノは救命具として
ベストなワケジャナイ」って言うんだ。

つまり、今は眼の前にソレがあってソウナッ
テイルカラといって、それがベストじゃない。
モットイイ救命具をつくれるヨっていつてる。
ワタシたちが毎日ツカッテル道具も、「あのソ
ウナンしたピアノみたいな、その場シノギじゃ
ないの」と問いかけてる。

でもアエテイエバ、ピアノも救命具として
つかえるんだヨネ。

論点がズレルケドこの「ハモニカ横丁ミタ
カ」はソウナンしたピアノじゃないかと思う
んだ。

ハモニカ横丁ミタカを ジェイン・ジェイコブズと ロバート・モーゼズにササゲル。

[ジェイン・ジェイコブズ]
米国ペンシルベニア州スクラントン生まれ。
高速道路の急速な建設への反対運動や、都市
の再開発に対する問題提起が、ジェイコブズ
の生涯のテーマであった。ニューヨークのグ
リニッジ・ヴィレッジに住んでいた当時、道
路建設、再開発の計画が公表されると反対運
動の先頭に立ち、ローワーマンハッタン高速
道路の建設が中止になった1962年には反対
合同協議会の議長を務めていた。第二次世界
大戦前後より30年以上ニューヨーク州・市
の都市計画に大きな権限があったロバート・
モーゼズとの、環境保全を求める闘いは有名。
(『ウィキペディア (Wikipedia)』から引用)

[ロバートモーゼズ]
第二次対戦前のニューヨーク市のプランナー
であり、公園局長である。市内の公園、橋、
道路などの建設プロジェクトをどんどん手掛
け、ニューヨークの建設関連部門を一手に握
り、ニューヨーク市議会だけでなく州議会、
関係業者、銀行、建設会社、労働組合、メデ
ィア、果ては宗教界に至るまでを味方につけて、
州知事、市長もその前に屈せさせる巨大な権
力を持つに至る。
(ブログ:『小出兼久が選ぶランドスケープ
アーキテクトが読むべき本』から引用)

進化しないという確認。

VIC 中塚洋子

時は未来から過去に流れている。
弾丸列車のように現実はその前に時にあら
がいながら進む。

何も無い箱に手を差し込むと向こうから
ふっと握り返してくる。あなたの未来が。
廃墟のパチンコ屋の後に、現れた三鷹ハモ
ニカ横丁は、ざらつく手触りを元手に、立ち
上がった、未来志向のYOKOCHO。

物の立ち位置が見えてくると、人が行き来
する。

街の流れが変わる。人がしるしを付けて、
空気にもいいが加わる。

不可解なものが、秋の日差しにすでに既知
のものに成っていく。

無いものが有るためには、有るものがなけ
ればならない。

パチンコ屋があり、横丁があり、今日、確
かに日差しの中に人がいる。

キケンダということをやイというグループ。

ブルックリンの「荒れている」ということが
モットモ愛すべきなにかであると思うベン・シャーンが
写真にとって残して伝えたいと思うことの
好きなグループ。

(都市はなぜ魂を失ったか シャロン・ズーキン)

黄昏の空を背負って 今日ものんべえたちは 集まっているだろうか。

ライター 原涼子

三鷹はかつて軍都だった。こんな風になら
ず、今の高級住宅街のイメージとあまりにか
け離れていて、以外に感じられたり、眉をひ
そめる肩さえるかもしれない。

けれど土地の記憶もひとの記憶も、そう簡
単には上書き更新されないものだと思う。

現在のICU(国際基督教大学)の敷地には、
軍用機開発の重要拠点、中島飛行機三鷹研究
所があった。週末には大勢の家族連れでにぎ
わう武蔵野中央公園では、最盛期には五万人
の人びとによって戦闘機のエンジンが製作さ
れていた。吉祥寺ハモニカ横丁の古くからの
店主のなかには、中島飛行場のメッキ工場
で働いていた方や、横河電機に勤める親戚をた
よって武蔵野の土地に来たという方もいる。

スタジオリブリの映画で再び耳目を集めた
「零戦」のエンジンもそのおよそ3分の2が
中島飛行機でライセンス生産されていた。余
談になるけれど、「零戦」は世界で初めて単独
無着陸大西洋横断を成功させた英雄、チャー
ルズ・リンドバーグと太平洋戦争で対峙して
いる。

ハモニカ横丁ミタカ(HYM)は1968年に
建設されたビルをリノベーションして誕生し
た。以前は一階がパチンコ屋、二階はカプセ
ルホテルとして利用されていた。建築的価値
はないけれど、「通勤時や買い物帰りに目の端
に入る」。地元の方にはそういう馴染み方(か
た)をしていた場所だっただろう。

土地の有益な利用法はシェア=共有するこ
とだけれど、経済効率だけを追い求めてメチャ
クチャになってしまったマチや駅前には少なく
ない。
ブルトナー型の開発、scrap & build よりあ
たたかみのあるやり方はあるはずなのに。

「横丁は本質として自然発生的なもの。それ

を意図的に作ろうなんて無茶苦茶だ」という
声を聞いた。たしかにそうかもしれない。で
もあえて余談を重ねてHYMの援護射撃をし
たいと思う。

大戦前夜、リンドバーグはもうひとつの「世
界初」を成し遂げていた。「人工心臓=グラ
スハート」の発明である。衰弱していく義姉
の心臓を「飛行機のエンジンを積み換えるよ
うに」いれかえることはできないだろうか
という発想だった。義姉の寿命には間に合わ
なかったけれど、彼の考えたポンプはたくさ
んの人の「ほんとうの心臓」になっている。

意図的に作られた横丁なんて矛盾してい
る。それでも、「時間はかかっても、やがて
ほんとうの横丁のように三鷹のマチの一部に
なる日がくればいい」。HYMに関わった人た
ちは本気でみんなそう願っている。

風化してスクラッチスタイルのような風格
を持ち始めていたコンクリートは、新しい横
丁の意匠の一部になった。

戦闘機ではなく、武蔵野の鳥になってマチ
を見下ろしてみる。黄昏の空を背負って今日
ものんべえたちは集まっているだろうか。そ
して翼よ!あれがあたりらしいハモニカ横丁の
灯だ!

アマチュアという名の前衛

VIC 手塚一郎

「つくらない、デザインしない」ものをつ
くろうという。これは大変だと思いました。
与えられた空間を神様のように原田さんがつ
くって、そこに僕は寄生すればいいんだ、
そう考えたらラクになりました。つくる人は
なんでも自由人できるように思うけど、この
空間に職人さんたちは苦労したと思います。
建築家さんの力というのが、自分の想像や図
面で見えていたものを超えていく感じです。

そういうものにひっぱられていく感覚は、

不思議でした。

VICをつくるきっかけは大学の時、学内有
線テレビをやるにあたって、「ポータパック」
という50万円のソニー製のビデオが必要で
した。その時にある牧師さんがポンとお金を
貸してくれたんです。その50万円がなけれ
ばいまのVICは有り得なかった。それと同じ
で、三菱東京UFJ銀行のお話がなければ、こ
のハモニカ横丁ミタカはなかった。モチロン、
メインバンクの多摩信用金庫があつてのこと
ですが、ビジョンやコンセプトを受け取って
くれる銀行がいるというのは単純にうれし
かった。支店長の遠山さんは名前もそうです
が、顔のイメージもなんか「遠山の金さん」
みたいで、立場を超えてご本人の資質として
僕の考えをうけとめてくれたように感じまし
た。

店は、「オイシイ!」がはじめに来て、「安
いな」と感じてもらうのが一番いいんです
が、でもこれがなかなか難しい。採算を合わせ
ないと潰れてしまいますが、お金だけで動くな
んて人間は無理です。

三鷹のまちづくりの方や商店会の方とはな
しをしていますが、マチとの関わりは少し時
間がかかるかもしれないという気はします。ビ
ジネスみたいにはいなくて、いっしょに
コーヒーを飲んだりして、少しずつ中に入っ
ていくしかない。吉祥寺で始めたときはそう
いう配慮もなかったのが、敵が多いみたいにな
ってしまいました(笑)。今回は時間を
かけてジックリと、そう思っています。

